

生涯教育研究と実践とのかかわり

－歴史研究の側面から－

蛭田 道春
(大正大学)

本稿は、ささやかな研究経験から、主として生涯教育・社会教育の歴史研究を中心に研究方法や、未開拓の研究分野についてきがついた点を述べてみたい。そして、その歴史研究と実践とのかかわりを究明したいと考えている。

1. 歴史研究の意義

生涯教育の歴史研究について、1965年のポール・ラングランの発表以降は当然、含まれるが、1965年以前についても生涯教育の特質が存在する事項があることから歴史研究の意義がある。特に我が国における生涯教育は、いわば社会教育の部分が大きいことから1965年以前の社会教育を含めての歴史研究は、非常に重要であることはいうまでもない。その我が国の社会教育は、「公」の機関が国民の教育に何らかのかたちで関与・援助したことを考えると近代以降ということになる。

そして、今までの生涯教育をみると、主として従来の社会教育をベースに展開され、また行政が主導している場合が多い。つまり、行政が大きな役割を果たしていることを考えると、その施策を支えていた考え、人物、施策、事業など、それらについて時間的・空間の流れから考察することが重要であろう。例えば、地域レベルで考えると、生涯教育活動が各地域で展開され、その特質、成果が提示されている。それにもかかわらず、それらの活

動の成果は過去の事項にすぎなかったこととされ、見向きもされていないきらいがある。今、ここで、それらの過去のいかなる活動であっても、その活動成果を時間的系譜の中に位置づけてみる必要がある。時間的系譜の中に位置づけることによって、その活動成果がどんな内容であったかが窺え、大変、意義深いものであろう。そして、それらの活動を支えていた理論、人々の考え方、その活動の特質について整理することによって、その成果の価値を理解し、学ぶことができる。

一般に歴史研究は、過去の事象を考察することによって現在の問題・課題を解決する糸口を得るためであり、過去を辿ることによって、それらの解決策を発見しようとするものである。そのため、単に過去の事象を発見するという、何かあったということだけではないのである。それ故、多様な現代社会の課題を把握・理解するためにも、多様な歴史研究アプローチが考えられる。生涯教育研究についても、過去の生涯教育の実践活動から現代社会の生涯教育の特質を考察する意義が考えられる。

2. 関係資料の吟味

まず、歴史研究を進める場合に関係資料の収集・整理が不可欠であろう。

公文書、会議録、関係雑誌・単行本、伝記、日記、聞き書きなどが考えられる。それらの資料を整理したり、資料を解読する能力が求められ、地道な研究態度が望まれる。

例えば公文書から社会教育関係文書を検索し、それらの文書から該当する資料をさらに研究資料としてどのように扱っていくか、資料をいかにして解読するか、資料から何を（事実）どう読むかである。日付、署名、文書の形式などの扱い方についても検討する必要がある。

また、各時代の先人の残した日記には、当時の生活のそのままの情報が存在している。やはり、そこには日記の分析の仕方、日記を解読する能力が求められる

伝記の場合、社会的成功者が多いので、一生の生き方や行動の仕方などに関する記述があり、成功者の社会的対応の仕方がみうけられるので、その人

間にとっての人生の重みのある事項が看取される。その点を究明することが重要である。

雑誌関係については、最近では復刻版が多く出版されているので、それらを活用するとともに、復刻されていない当時の雑誌から社会教育資料を丹念に収集することも肝要である。

次に、これらの資料を活用したいいくつかの歴史的研究の教育関係要素を取り上げて、そこでの課題を述べてみる。

3. 研究の領域・分野と課題

歴史的研究の分野として、地方・地域レベルの生涯教育の歴史研究、事例研究、制度・施策史研究、生活史研究の方法による生涯の形成史研究、統計的方法を活用した歴史研究、生涯教育学説史研究、思想史研究、人物研究、外国との比較研究などがあげられる。次に、それらについて述べてみる。

・地方・地域レベルの生涯教育の歴史研究

地方・地域レベルに応じた特色のある生涯教育の考え方や実践が展開されている。それらのレベルにおける特色のある生涯教育の展開を吟味するためにも歴史研究が求められる。そこには実際に生涯教育を展開する場面であるので、地方の市民の意識が反映している。そこで、それらの学習の位置づけを究明することによって、伝統的事項、新しく導入された事項などが指摘されれば、ある意味では日本独特の生涯教育とは何かを究明することが可能である。

そして、歴史研究としての実践研究を考えてみれば、過去の実践記録を研究資料として活用した現在の実践活動が過去とつながっていることの研究、つまり、つながりとかかわりの研究が求められている。そのためにも、民族学、一般歴史学、地方教育史などの研究成果を活用しながら過去の実践活動を考察することが大切である。

この地域レベルの生涯教育の歴史研究には、生涯教育の歴史研究のすべてが含まれている。例えば、生涯教育の思想史研究・制度史研究・人物研究・

学説史研究・事例研究等である。

・生涯教育の事例研究

ある生涯教育研究のテーマについて証明するために、ある事例を実践活動の成果としてどう取り上げられるか？そのために典型的・代表的な事例であることの証明が必要であって、研究の意図が明確であらねばならない。そして事例を通した理論構築の在り方、いくつかの事例の積み重ねによる理論への積み重ねが求められる。実践事例の共通項にあるものをとりあげてもよい。

例えば、実践事例の歴史研究の場合、当時の文書、関係資料から綿密・詳細な事実の追求とそれに基づく分析が求められる。従来の先行研究の検討、そして、事例としてどのタイプの事例になるのか、その事例に関しての詳細な実証的研究が考えられる。このような実践の歴史研究で問題・課題がみつかるとすれば、その解決方策に関して制度的、原因追求のための調査とそれに見合う、一般性のある解決策の研究が望まれる。

・制度・施策史研究

わが国の生涯教育・社会教育の制度・施策史的研究については、今までに刊行された行政資料などを活用した歴史研究の必要性である。府県市町村教育史はあまりにも学校教育に傾斜しがちになっていて、生涯教育・社会教育の歴史研究は少ない。わが国の社会教育が行政主導の特質であるとすれば、この制度・施策史的研究はとりあげられなければならないであろう。法規則、条例、施策、行政の所掌事務、行政組織の機構、職務内容研究、官僚制などの歴史研究などがあげられ、それらの内容に基づく研究を開拓する必要がある。また、施策と実際面の庶民の生活意識・生活価値観との差を究明することも重要である。

・生活史研究の方法による生涯の形成史研究

ある人間の人生体験をインタビューした記録、手記、関係資料などからある人のライフヒストリーを構成する方法である。つまり、記録などをしながら、被調査者の同意を得て記録の間違いのないことが必要である。これらの記録から個人の「学び」に基づいて、一生の学習歴を知るこの生活史の広が

り、ある地域における生活者としての生涯学習活動を対象とする。

・統計的方法を活用した歴史研究

地域レベルでの生涯教育の歴史研究について、科学的実証的研究の必要性が求められている。従来の歴史研究はややもすれば、歴史という思想史研究や法令解釈的研究が多かった。しかし、近年の統計学の発達から、これらの手法によって信頼できるデータを分析してその時代的特質を引き出すことが可能である。そのために基礎データ（資料）が信頼できるものであること、そして、その基礎データを分析するのに、どんな分析の枠組にするのかをよく検討しておくことである。単に、関係計算式にあてはめるという作業報告であってはいけない。現在、市民の生涯学習の実践活動は非常に多様なので、それを分析する手段として統計的手法は不可決であろう。

・生涯教育学説史研究

1965年以降、諸学説が多様な研究機関等で紹介されてきた。これからの研究には、さらなる学習論、理論と実践との関わり、学習論の形成プロセスが解明されることである。その生涯学習論が、いかにして生涯学習の実践活動にいかなる段階を経て影響を与えたかを考察するのも意義深い。ここでの生涯学習論とは、考え方や単なる主張とは区別されるべきものであることは当然である。

・人物研究

歴史をつくるのは、人間である。人物の考え方、果たした役割・活動など人物（個人）がどのような生涯をどのように生活したか、そして社会とどのように関わったかに関する「学び」の歴史を考察する。とくにその人物（個人）の役割・活動が、その時代に大きな役割を果たしているのはその個人の思想に現れているのである。

・思想史研究

まず、思想史研究においては、あるふさわしい社会観での人間像・人間観が考察されることであろう。そして、教育目標・教育目的が存在する思想レ

ベルでの研究で、その時代のエートスが究明されることが求められる。この思想レベルでの研究は、まだ、未開拓の分野であることはいうまでもない。とくに思想研究をすすめる場合、わが国の場合の伝統的な思想（儒教、仏教、神道など）の基本的思想を理解し、教養をもっていることが非常に重要である。

・わが国と外国との比較研究

外国から我が国に輸入され、受け入れられた生涯教育・社会教育について研究することによって、それらの日本的特質を究明することが求められる。例えば欧米の生涯教育・社会教育の ある部分が導入され定着した事項があるとすれば、どの部分がどのような経路をたどって導入され、生涯教育・社会教育の実践に影響をあたえているか？またその事項の導入にどの程度の人が関与したか、さらにどのような条件で紹介され、その思想はどうであったかなどである。

逆に、日本の社会教育が外国でどう受け入れられ、どのような段階を経て定着したかをみるのも重要である。とくに、日本人の移民によって外国でどのように社会教育活動が展開されたかを究明することによって日本の社会教育の特質が把握されるであろう。

以上、いろいろと歴史研究のアプローチを述べたが、いずれにせよ歴史研究は、生涯教育・社会教育の現象において過去の事実を追求し、そのメカニズムを解明したり、その歴史的要因から過去の問題点・課題解決方を推論して、現在の生涯教育・社会教育の現象のメカニズムや諸課題解決方を把握しようとするものである。